

説教題：「私たちに対する神の御心とは」

中心聖句：

エペソ 5 章 17 節 -

「ですから、愚かにならないで、主のみこころは何であるかを、よく悟りなさい。」
ローマ人への手紙 12 章 1-2 節 - 「そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。²この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまを知るために、心の一新によって自分を変えなさい。」

お早うございます。今日は、約 3 年前にここで、した説教をお話しします。このメッセージは、私がクリスチャンとしての初期に非常に価値があると思った本に基づいており、もう一度あなたと共有したいと思います。

本日の説教は、「私たちに対する神の御心とは」と題してみました。今日は、私が何年も前に初めて読み、大変影響を受けた本から、その要点をいくつかご紹介したいと思います。私たちクリスチャンは、私たちに対する神の御心とは何かを知り、理解したいと望むものです。「これについての御心は」「今決めなければいけないあのことについての御心は」などというように。私たちは、「キャリアを築いていくことに関しての御心はどうだろう」「神は、この大学に行くように示されているだろうか、それともあちらの大学だろうか」「神は、この人と結婚するように導かれているのだろうか、それともそれは間違っているのか」などと問いかけます。

私たちはしばしば、今、目の前にあることに対しての具体的選択肢を並べ、どれを選択するかについて神の御心を求めます。

確かに、神様は私たちのために具体的な計画をお持ちでしょう。そしてそのご計画を適切な時に私たちにお示しになるのです。しかし私は、ある年配の賢明なクリスチャンから一度こう言われたことがあります。「今、目の前にあることに対する神からの具体的な導き（大学や仕事、結婚相手のことなど）を求めるよりも、私たちの人生における神の御心の 95% は既に聖書の中に明らかにされているということに気づくべきだ。」もう一度言います。私たちの人生における神の御心のうち、95% が、まさにここに、この聖書の中に既に明らかにされているのです。ですから、私たちの人生における御心を探し求める場所として、まず聖書から始めるのが適切なわけです。

この本の著者も、この論点から本を書き始めています。今日ご紹介したいこの本は、ジョン・マッカーサー著「*Found: God's Will*（御心はここに）」という本です。この本でマッカーサー師は、中心聖句として神の御心に具体的に言及する聖句をいくつか挙げています。ですから、これらの聖句を深掘りし、私たちのクリスチャン・ライフにおける神の御心を見出してみましょう。

テモテ第一 2:3-4 「2:3 そうすることは、私たちの救い主である神の御前において良いことであり、喜ばれることなのです。 2:4 神は、すべての人が救われて、真理を知るようになるのを望んでおられます。」
4 節をもう一度見てみます。「神は、すべての人が救われて、真理を知るようになるのを望んでおられます。」とあります。すべての人が救われて、真理を知るようになることが神の御心なのです。

原則 1 神の御心とは：救われること

ここでもう一つ聖句を見てみましょう。

ペテロ第二 3:9 「3:9 主は、ある人たちがおそいと思っているように、その約束のことを遅らせておられるのではありません。かえって、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。（欽定訳聖書には、「神は誰も滅びることを自ら望まれはしない」とあります）」

神は、誰にも、滅んでほしくないのです。神は、すべての人に救われてほしいと思っておられ、私たちすべてが悔い改め、真理を知ることが望まれているのです。そのうえ神は、私たちに忍耐強くあられます。私たちが創造主から道をそれてしまったにも関わらず、その強情さを悔い改め、神に立ち返るよう望んでくださっています。

神の御心を知ることの出発点は、私たちが救われ、そして私たちの創造主に立ち返ることなのです。では、2つ目の原則に移りましょう。

エペソ 5:17-18

「5:17 ですから、愚かにならないで、主のみこころは何であるかを、よく悟りなさい。

5:18 また、酒に酔ってはいけません。そこには放蕩があるからです。御霊に満たされなさい。」
主のみこころは何であるかをよく悟りなさい。お酒で自分を満たすことによってではなく、神の聖霊に満たされることによってそうするのです。

原則 2：御霊に満たされること

英語の新ジェイムズ王訳聖書では、17 節に「知恵のない者とならず」とあります。英語の聖書の多くではここが「愚かにならないで」と翻訳されています。そのことからパウロは明らかに、御心を理解せず、神に栄光を帰する生き方とは相容れない生き方をしていた愚かなクリスチャンたちに向けて手紙を書いたことがわかります。彼らは自らを酒で満たし、好ましくない行いをしていました。彼らは、これらの良くないものの代わりに聖霊で満たされることができるということを知りませんでした。私たちの人生における聖霊の働きについて少し時間を取ってお話しましょう。

まず私がお伝えしたい点は、すべてのクリスチャンのうちに、聖霊が住まわれるということです。ヨハネ 14 章 16-17 節でイエスは弟子たちに、ご自身が彼らを離れた後に特別な助け主をお送りになると語りました。その箇所を読んでみましょう。

「14:16 わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。

14:17 その方は、真理の御霊です。世はその方を受け入れることができません。世はその方を見もせず、知りもしないからです。しかし、あなたがたはその方を知っています。その方はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちに住まれるからです。」

16 節で、イエスは「もうひとりの助け主」を弟子たちに送られると言っています。他の英語の翻訳では、ここが「もうひとりの慰め主」または「もう一人の弁護する方」などと訳されています。17 節では、これを「真理の御霊」と呼んでいます。聖書では様々な呼び方で御霊を表現しています。

「神の霊」もその一つです（創世記 1:2、マタイ 12:28 など）。ペテロ第一 1:11 には「キリストの御霊」とあります。これらはすべて、三位一体の第三の位格である、私たちが一般的に聖霊と呼ぶ方を指しています。イエスは、弟子たちに御霊を送り、「あなたがたはその方を知っています。その方はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちに住まれるからです」と言われました。御霊は今私たちのうちに住まれ、これからもおられるのです。聖霊はキリスト者たちに内在されるのです。

これについてももう少し詳しく語ってくれているのがコリント第一 6:19-20 です。

「6:19 あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。 6:20 あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現しなさい。」

私たちのからだは、私たちのうちに住まれる「聖霊の宮」、です。私たちのからだはもはや私たちに属さないわけです。それは神に属し、私たちのからだをもって私たちは神に栄光をもたらすのです。聖霊は私たちのうちに住まれ、私たちのからだは聖霊の家であり、宮なのです。エペソの5章18節に戻りましょう。「5:18 また、酒に酔ってははいけません。そこには放蕩があるからです。御霊に満たされなさい。」

酒に酔ってははいけません。あなたの人生における聖霊の働きを妨げるものはどのようなものであっても、それに満たされてはいけません。昨年説教をした際に、私は時折テレビの前で時間を過ごす時間が長すぎるとお話ししました。テレビに満たされていたのです。そうすると、時間を無駄にしまいかねません。また、頭の中が無益なもので満ちてしまうかもしれません。ですから、ここで言われていることは、人生における聖霊の働きの機会を奪う無益なもので自分を満たすことはやめましょう、ということです。私たちは、聖霊に満たしてもらわなければなりません。

では、聖霊に満たされるとは、どういう意味なのでしょう。まず、お酒の飲みすぎ、テレビの見過ぎ、罪深い態度や習慣など、無益で害のあるものを捨て去ることで。次に、まずは日頃から聖書を読むことで聖い思考と聖いもので心を満たすことです。

エペソ5章18節で御霊に満たされなさいと言った後、19節と20節ではこう言っています。「5:19 詩と賛美と霊の歌とをもって、互いに語り、主に向かって、心から歌い、また賛美しなさい。 5:20 いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって父なる神に感謝しなさい。」

これに並行するように、コロサイ3章では、類似のことについて教えています。ただ、始まりが少し異なります。「3:16 キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。 3:17 あなたがたのすることは、ことばによると行いによるとを問わず、すべて主イエスの名によってなし、主によって父なる神に感謝しなさい。」

この2つの聖書箇所の中には、「詩と賛美と霊の歌とにより」「感謝にあふれて」など、とても似通った表現が出てきます。ですが、「御霊に満たされて、」と始めるかわりに、コロサイの手紙でパウロは「キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ」と始めています。御霊に満たされるために極めて重要な要素は、神の御言葉に満たされることなのです。神の御言葉に満たされることにより、神にとって何が重要なのか、そして私たちがどのように生きるべきなのかを学ぶのです。

では、「聖霊に満たされる」とは、厳密にはどういう意味なのでしょう。それは、神が自分の考えや行動を導くままにお任せするということです。マッカーサー師は「御霊に満たされた人生はあらゆる決断を聖霊の支配に委ねること・・・聖霊に満たされた人生は、キリストが内在してくださるといふそのご臨在を感じながら生きること以外の何ものでもない。・・・御霊に満たされるとは、常にキリストを覚えて生きることである」と言っています。

この話題に関してもっと多くを語りたいところですが、私たちに対する神の御心の3つ目の原則に移りましょう。

テサロニケ第一 4 章 3-5 節

「4:3 神のみこころは、あなたがたが聖くなることです。あなたがたが不品行を避け、
4:4 各自わきまえて、自分のからだを、聖く、また尊く保ち、4:5 神を知らない異邦人のように情欲におぼれず、」

この聖書箇所は、新約聖書の中でも最も端的に、明確に私たちに対する神の御心を示す箇所だと言えるでしょう。私たちは、非クリスチャン社会に従うべきではありません。肉にある情欲におぼれてはいけません。クリスチャンの生き方についての神の御心は、私たちの聖化なのです。3 節をもう一度見ましょう。「4:3 神のみこころは、あなたがたが聖くなることです。あなたがたが不品行を避け、」

原則 3：聖くされること

「聖くされる」とは、「他から離される」ということです。まず、罪から、そして以前の罪深い行いから離され、そして世と世の聖さとはかけ離れた態度から離されることです。次に、「聖くされる」とは、神のために区別されるという意味があります。

私たちは今や神の家族の一部であり、神をたたえ、そして神と神の教会に意欲的にお仕えするような生活を送るべきなのです。

この聖書箇所は、私たちを取り囲む非クリスチャン社会に従ったり、肉の情欲におぼれたりしてはいけませんと教えています。私たちは具体的に不品行を避けること、つまり婚姻関係を伴わない性的行為の一切を避けることを教えられています。4 節には、「各自わきまえて、自分のからだ（器）を、聖く、また尊く保ち、」とあります。聖書注解者によると、この「器」とは、身体的なからだを指しているそうです。私たちが自分のからだで行うことは、きよく高潔なものでなければなりません。 私たちクリスチャンは私たち自身、そして私たちのからだをも主にお捧げしたので、神をたたえ、自制と確かな純潔さをもって自分たちのからだを大切にしなければなりません。

数分前にコリント第一 6:19-20 を引用しました。19 節には、私たちのからだは私たちに内在される聖霊の宮である、とありました。20 節には、十字架で流された血により、キリストが私たちを買い取られたと教えています。（より詳しくは、ペテロ第一 1 章 18-19 節とヨハネの黙示録 5 章 9-10 節をご覧ください。）私たちはもはや自分自身に属さず、神に属すのです。ですから、私たちは自分のからだをもって神に栄光をもたらさなければなりません。では、原則 4 に移りましょう。

ペテロ第一 2 章 13-15 節

「2:13 人の立てたすべての制度に、主のゆえに従いなさい。それが主権者である王であっても、
2:14 また、悪を行う者を罰し、善を行う者をほめるように王から遣わされた総督であっても、そうしなさい。2:15 というのは、善を行って、愚かな人々の無知の口を封じることが、神のみこころだからです。」

原則 4：服従すること

私たちが政府、王や知事に従うことが、神の御心です。これが正しい生き方であり、政府に従うことで、私たちを批判する者を封じこめることができます。未信者は、私たちのうちに欠点を見つけ、キリスト教を、そして神を批判することを好みます。私たちは、法に従い、一市民として良き見本を見せることで、そのような批判を封じることができます。

もちろん、時には人の法が神の命令に真っ向から反対することもあります。その時は、私たちは人よりも神に従うべきです。使徒言行録 4 章に例を見ることができます。使徒ペテロとヨハネは、福

音を述べ伝えたために投獄されました。彼らはイエスの福音をこれ以上説かないようにと命令されていましたが、人にではなく神に従うべきだと断言しました。それで、彼らはやめる命令に従うのではなく、福音を宣べ伝え続けました。

時折、そのような姿勢が必要なことがあります。けれども、通常は主権ある者に従うことが神の御心なのです。

ペテロ第一 2 章では、続けてしもべたちに向けて語っています。18 節には、「2:18 しもべたちよ。尊敬の心を込めて主人に服従しなさい。善良で優しい主人に対してだけでなく、横暴な主人に対しても従いなさい。」とあります。横暴な主人に対しても従う、です。そして、主人が良い主人であっても悪い主人であっても、敬わなければならないのです。これは、従って歩むのには高すぎる基準のようにも思えますね。しかし、それが神をたたえるということなのです。では、5 つ目の原則に移りましょう。

ペテロ第一 4 章 19 節

「4:19 ですから、神のみこころに従ってなお苦しみに会っている人々は、善を行うにあたって、真実であられる創造者に自分のたましいをお任せしなさい。」

神のみこころに従ってなお苦しみに会っている人々

原則 5: 必要であればクリスチャンとして苦しみを受けることをいとわない

時に、苦しみは私たちに対する神の御心の一部であることがあります。もちろん、苦しむことは心地の良いものではありませんが、時に私たちの苦しみは福音が告げ知らされるという目的に満ちた、神のご計画の一部であることがあるのです。これは皆さんや私にとって、家族や仲間、もしくは政府から迫害され苦しい時期を経験しなければいけない、ということかもしれません。もし私たちの人生でそのようなことが起こることが神の御心なのであれば、それを受け入れましょう。この聖句にあるように、「真実であられる創造者に自分のたましいをお任せしなさい」。これこそが従うべき正しいことなのです。

ペテロ 4 章 14-16 節を見てみましょう。

「4:14 もしキリストの名のために非難を受けるなら、あなたがたは幸いです。なぜなら、栄光の御霊、すなわち神の御霊が、あなたがたの上にとどまってくくださるからです。 4:15 あなたがたのうちのだれも、人殺し、盗人、悪を行う者、みだりに他人に干渉する者として苦しみを受けるようなことがあってはなりません。 4:16 しかし、キリスト者として苦しみを受けるのなら、恥じることはありません。かえって、この名のゆえに神をあがめなさい。」

クリスチャンとして証するために苦しみを体験することは、神の御心のうちであると言えますが、もしも自分が盗みや殺人等の罪を犯したり、もしくは人に迷惑をかけるような問題ある人物であるというだけでも、そのように自分に非があるとしたら、体験する苦しみに対して不満を嘆くべきではありません。法を犯せば、罰を受けるのは当然のことです。しかし、クリスチャンとして証をした結果として苦しみを体験するのであれば、私たちは御心の内にあり、またその苦しみゆえに祝福されていると確信することができます。

ということで以下が、私たちに対する神の御心について聖書が示す重要要素です。

1. 救われること
2. 御霊に満たされること
3. 聖くされること
4. 服従すること

5. キリストのために苦しみを受けること

聖書を読み進めると、時々私の恩師たちがクリスチャン生活について教えてくれたことへの理解を拡げてくれる素晴らしい聖書箇所に出会うことがあります。今回も、マッカーサー師の提示する神の御心についての要素に追加できそうな聖書箇所を一つ見つけました。

テサロニケ第一 5 章の終わりにかけて、使徒パウロは、一連の短い訓戒を書き記しています。

16 節-いつも喜んでいなさい

17 節-絶えず祈りなさい

18 節-すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。

19 節-御霊を消してはなりません。

18 節をもう一度見てみましょう。「18 節-すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。」

この節は、感謝をささげることが私たちに対する神の御心であると教えています。私たちが**感謝**することが、です。すべてにおいて、です！ですから、自信を持ってもう一つの原則を追加しましょう。「**感謝すること**」、これが 6 つ目です。英語では 5 つの原則がすべて「S」から始まっていますので、ここで「S」から始まる言葉を思いつかず、均整が取れていたのがここで終わってしまうのが残念ですが、私はこの 6 つ目の原則を追加することが大事だと思っています。

これらの聖書箇所パウロが私たちに「いつも喜んでいなさい」「絶えず祈りなさい」「私たちに起こるすべてのことについて感謝しなさい」「御霊を消してはなりません」と戒めていることに注目しましょう。

最後の部分を読むといつも、どのようなことを通して私たちが「御霊を消し」得るのかというイメージが頭に浮かんできます。それは私たちの人生における聖霊の働きを締め出すお酒やテレビ、その他の無益なもので自分を満たそうとすることかもしれません。私はお酒に関しては今まで何も問題ありませんでしたが、テレビを見ることに関しては今、厳しく自分を抑制しています。

御霊を消し得るもう一つのことは、状況が自分の思い通りに行かないときに不平を言うことかもしれません。私自身、特に物事が自分の思うように行かなかった時、不平を言う傾向にあり、特に失望感を経験すると時には大変深刻に考え、落胆してしまう傾向にあります。

数年前に一度そのような失望を味わう経験をした時、知恵に満ちたクリスチャンの長老と話をしました。私は彼に「私には神が見えないのです。見たいと思っているのに。」その方が私に分かち合ってくださいましたものの 1 つが、詩編 50 編の最後の節でした。23 節を見てみましょう。

「50:23 感謝のいけにえをささげる人は、わたしをあげよう。その道を正しくする人に、わたしは神の救いを見せよう。」」

神を見るための一つの方法は、「道を正しく整える（神の基準によって生きる）」ことです。そして、「感謝のいけにえをささげる」のです。この長老は、私たちに起こることは何であっても、すべてに対してありがたく感じ、感謝することがいかに大切かということを教えていただきました。そして、神に感謝の意を示すのです。その時から私は、何が起ころうとも神に感謝し、感謝の意を表現することを実行に移せるように努力してきました。時には今でもまずは不平を言ってしまうのですが、それでもすぐに感謝を持つ姿勢に戻れるようになりました。

説教者が、「感謝する心構えを持つ」ということがいかに大切かと説くのを何度か聞いたことがあります。

ですから、テサロニケ第一 5 章 16-18 節が私にはとても響きます。いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。私たちに起こるすべてのことについて感謝しなさい。

すべてのことについて感謝するのです。たとえ、とても喜べないような経験であっても。私は過去に、押しつぶされるような大きな失望をいくつか経験したことがあります。今振り返ってみると、それを落胆するような経験ととらえるよりはむしろ、学びを得た経験として見ています。この経験すべてが今日の自分という人間を形づくる助けとなったことに感謝しています。

私が数年前にこの聖書箇所を見出したことはお話しました。それで、これをマッカーサー師の小さな素晴らしい本で紹介される 5 つの原則に追加すべきだと思ったのです。ですが、今日の説教を準備するために今月もう一度この本に目を通してると、マッカーサー師がこの聖書箇所を見落としていた訳ではないということに気づきました。実際は、彼はこのことについて述べてから本を終えていたのです。

本の一番最後の段落には、「人生で何が起ころうとも、そこで感謝をささげましょう。『これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。』（テサロニケ第一 5 : 18)。神は、あなたを御心にかなうように形づくろうとそのことを用いておられるのです。」

マッカーサー師はこの文章で本を終える前に、もう一章費やして、この 5 つの原則にあるように神の御心に従ったら次はどうするのかについて教えています。

救われなさい。そして、あなたを創造されたお方と正しい関係にありなさい。

御霊で満たされなさい。無益なもので満たされることがないように。

自らのからだを大切にすきよい生活を送り、聖くされなさい。

権威ある者に服従しなさい。

キリストのために苦しみを受けるつもりでいなさい。

そしてもちろん、感謝していなさい。

では、今決断を迫られていることはどうすればよいのでしょうか。仕事や学校、結婚、その他のことについての決断です。マッカーサー師は、まず先述の原則を人生にあてはめなければならないと教えています。そしてそれができたら次のステップはと言うと・・・

次のステップに皆さん驚かれるかもしれません。私自身、これを最初に読んだ時には驚かされました。ですが、これは理に合っています。神の御心についての先述の原則を理解し、それに沿って生活しているのなら、次のステップはしたいことは何でもするということです。

マッカーサー師は「神の御心は多くの場合、場所に関係ないのです。神の御心とは、まず『ここへ行きなさい』であったり『そこで仕えなさい』ということではありません。神の御心の焦点は、あなたという個人なのです。もしもあなたがあるべき姿のあなたであるならば、自分の望みに従っても神の御心を成し遂げるのです。」

もしもあなたが救われていて、御霊によって生活し、神をたたえる生活を送っているのであれば、あなたはキリストの心を備え持っており、今直面している物事に対して正しい決断をすることができるのです。具体的な選択肢が目の前に示された時、どの道を取るべきでないか明らかになります。例えば、その選択肢を選ぶことで法を犯すようなことがあれば、その選択肢は選ぶべきではありません。

私たちは、いつも倫理的に中立な選択肢の中から選択しなければなりません。選択肢 A を選ぶべきでしょうか。それとも、選択肢 B でしょうか。もしくは、具体的なことであればイエスカノーかの選択になるかもしれません。しばしば、真剣に考えがちなクリスチャンほど、2つ、もしくはそれ以上ある選択肢に頭を抱え、どれが「私に対する神の御心」なのかと苦闘します。私の経験上、どれもが神をたたえる選択肢であり、どれを取るかはただただ自分自身にかかっていることがあります。ですから、マッカーサー師の本の最終章はしみじみ良いと感じます。

もう一冊、皆さんに強くお勧めしたい素晴らしい本があります。これは、マッカーサー師の本よりも長く、詳細に書かれた本で、クリスチャンたちが実生活で御言葉に神の導きを求めた様々な経験が書かれています。その本は「Knowing God's Will (神のみこころを知るために)」というブレイン・スミス氏著の本です。素晴らしい本なのですが、私は自分の中に教訓を落とし込むまでに3度程本を読む必要がありました。私たちは「神の御心」を、示された選択肢の中から正しいただ1つの選択肢を選ぶことであると思ってしまうがちです。しかし、そうとは限りません。時にはそうかもしれませんが、必ずしもそうではありません。

スミス氏は、特に人生の二大決心ともいえるキャリアと結婚相手に関して、その決断はまさにあなた次第だ、と言っています。もちろん、その決断は神をたたえるものである必要があります。私が3度目にこの本を読んでいた時、私の聖書の学びに参加していた女性のうちの一人が、彼女がその時に読んでいた素晴らしい本を見せてくれました。それは、まさにこの本の邦訳本でした。ということで、日本語でも読むことができますから、是非皆さんにもお勧めしたいと思います。

さて、マッカーサー師に戻りましょう。師は、この5つの原則が私たちの人生のうちに働いていれば、自分の心のうちにある望みに従ってもいいと言っています。更に重要な要素がもう一つあります。「行動を起こす」ということです。駐車している車を操作することは難しいですが、一度車が動き出せば、簡単になります。神があなたをどこかへ導いておられるように感じているのであれば、行動を起こし、神が操縦してくださる方に目を向けてみましょう。それが私が日本に行き着いた方法です -- 私は動き始めました、そして神は私をここに導きました。

最後に、神の御心について述べている聖書箇所をもう一つ引用しましょう。ローマ 12 章 1-2 節です。「12:1 そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。12:2 この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまを知るために、心の一新によって自分を変えなさい。」

1 節-神への生きた供え物としてあなたのからだをささげなさい

2 節-この世と調子を合わせてはいけません。むしろ、心の一新によって自分を変えていただきなさい。

今日の説教でお話した原則に従うことで、心を一新していただくことができます。そして神の御心を見定められるようになるのです。